カタカムナ物理の原理２

相似象学会誌３～４号

© 2021 カタカムナ音伝協会

カタカムナ人の統一感

- 現象潜象の一切を「モノ」として統一
- モノ一切の起元を「アマ」に統一
- モノ一切の単位を「ココロ」で統一

アマとは宇宙の全ての根源にある始元量
ココロとは、「コ」は微小という思念をあらわし、「コロ」は石コロなどにあるように「カタマリ」の思念をあらわす。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カタカムナの物性論

- 物質や生命その他一切のものを「モノ」としたサトリ

１）一切のものは動的性質と静的性質（絶対の静止ではない）を併せ持つ
イザナミ（波＝動）とイザナギ（凪＝静）いざ出発、始まり
イサ＝マ＝アマ→現象背後（カム）の基礎量、一切の物理量の元（アマ始元量）
時間量空間量（トキトコロ）も「マ」という始元のカサナリカエシ（重合互換）
２）アマから微分された極微の微粒子を「マリ」という（潜態・電気、磁気、力などの素量にも物質の基本粒子にもエネルギーにも位置量などに自由に変化転換しうる性質の量子）
３）「マリ」はアマに対して「アメ」とも言う。またモノの側からは「ココロ」とも言う。
４）全てのものにアマウツシがされている、アマナによって現象化する。
５）物質、生命質の元は潜象の「モコロ」で「モコロ」を統合しているのは「アマナ」
６）アマの物性にはソコタチ（膨張性）とソギタチ（収縮性）の両性があり、歪により自由に交わり合う＝アマノウヅメという。その微分量は「アメノウヅメ」といっている。

© 2021 カタカムナ音伝協会

マリの性質

１）**マリのイマタチ＝今の性（タチ）**
「イ」とは細かいもの、「マ」から小さく微分されたものが「今」
常に光速より速いスピード（アマハヤミ）で動いている「過渡」
イマの持続が「イノチ」イがマの微分で変遷して居ることの持続

２）**ヒダリミギリノマワリタチ**
左旋、右旋の旋転性があり互いに逆向く旋転の仕方に基づいて左右対称の「マリ」が存在する。

３）**マリのタバネタチ**
マリの体容積は加算的に集合する。マリは重合マリになり、物性系、生命質性系モコロを構成し現象物となる。マがチカラとなりイノチとなる。自由に出入りする。
「後光がさす」とか「滲み出る美しさ」などはアマとの交流によってあらわれるもの。

４）**マリのカサナリタチ**
マリは重合的に収縮し、濃密度は増大するが、体積量は縮小して小さくなる（ソギタチ）

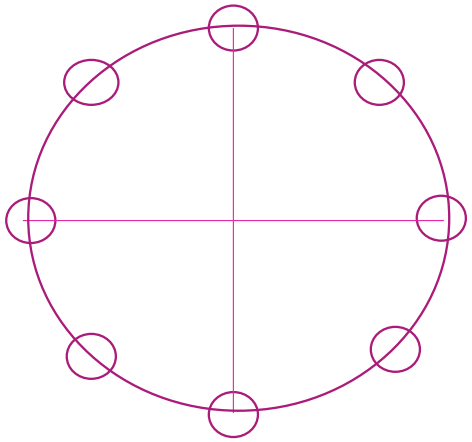
５）**オホマノワという性質**
オホマとはマリが容積されて大きくなったり、そうでもなかったり、和合によって様々なマリが生まれれていることの全容で「神が支配している」的なこと。

６）**マトマリタチという性質**
電気、磁気、力などにマトマリ、転移し極限に達すれば還元してアマにマトマル性質

© 2021 カタカムナ音伝協会

三種の神器～ヤタノカカミ

- ヤタノカカミ　カタカムナ　カミ



「飽和安定または恒常保全の極限律」という自然の摂理をあらわしている。
「八の数値で全ては規制される」という自然則。オクタント。
八は八百、八千代にあるように数多い世界という思念もあらわし、飽和安定（やすらぎ）の思念もあらわす。
ヤタのタは類のタ、巧みのタ、確かのタという思念。
カカミは鏡（軌範）とカ カミ（カムのカのミがカタのカ）の意味を含む。
また大円、小円はアマはアメに微分され、アメがアマに統合されることも表している。
四十八音の声音符も含まれている。

© 2021 カタカムナ音伝協会

三種の神器～ヤタノカカミ

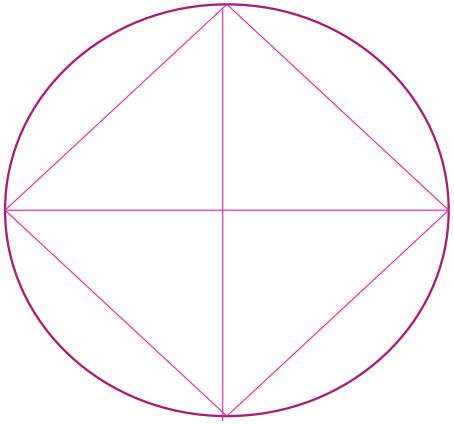
- ヤタノカカミで表している８種類の自然則（天然の一部）

１）物象における旋転循環性の自然則
２）物象における互換重合の自然則
３）物象における正反対称性の自然則
４）物象における正反性の親和希求の自然則
５）物象における微分統合性の自然則
６）物象における八数飽和の自然則
７）物象における分化極限率
８）物象における還元律（極限循環律）

© 2021 カタカムナ音伝協会

三種の神器～フトマニ

- フトタマノ　ミミコト　フトマニニ



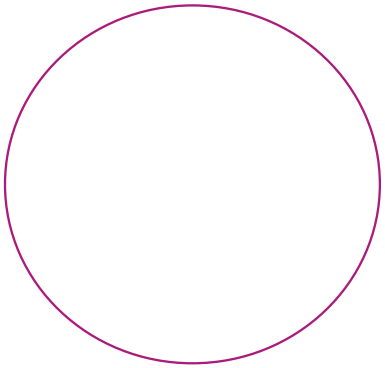
直訳すると「フタツのスガタがヒトツのタマに実ったモノゴト」
フタツとは、片の現象と片の潜象のこと。その両方の相を一つのタマに表したという意味。
ミとは、実、身、意味などの思念。
「ミコト」とは物事という意味の古代語。
フトマニニのニはフタツの相が「ひとつに」のニと、「図象図に」のニで、フマニニニ。アマの世界とアマから分化した現象世界との二つの相を一つの図象によって表現したという意味になる。

四角形は物象における四相を表している。４つの弧と４つの弦、４つの三角形における８辺は極限律（オクタント）も表している。
重なりは共役存在を表している。正反対称性。

© 2021 カタカムナ音伝協会

三種の神器～ミクマリ

- ヤサカノマガタマ　ミスマルノタマ



マガタマとはマノタマの抽象。大宇宙創生の相を単玉形式（ヒトツの丸いタマ）の七種の型で表現したものを「ヤサカノマガタマ」という。

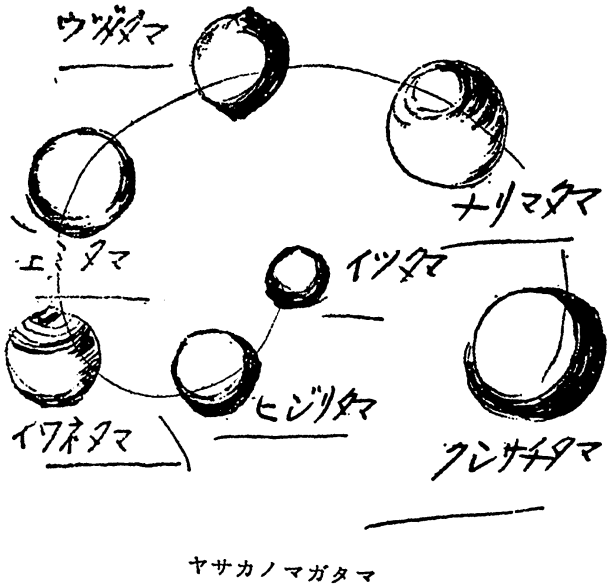
「ミスマルノタマ」は十一種の双珠によって地球上の生命発生の相が示されている。

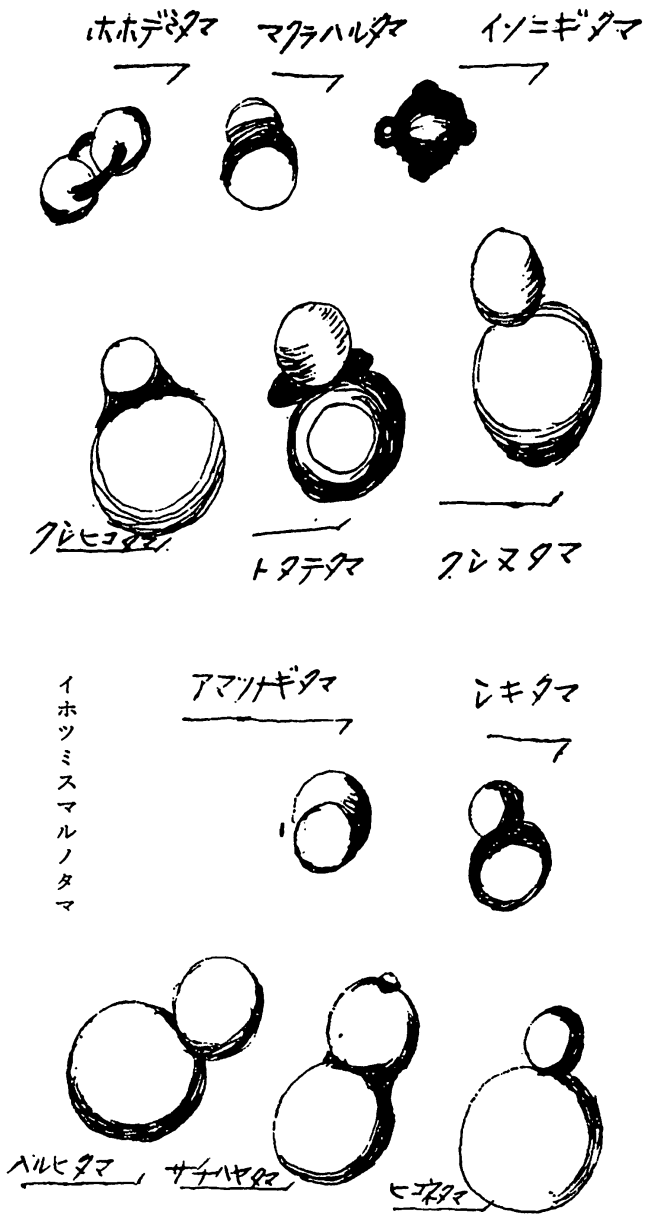
© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ

カムヒビキとは
カタチの見えない
いものを

ヒビキをもって
サトルこと





© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

（一）『タカマクラ　ナナヨツギ』
を表現する表象物
『ヤサカノマガタマ』に関する
カムヒビキ

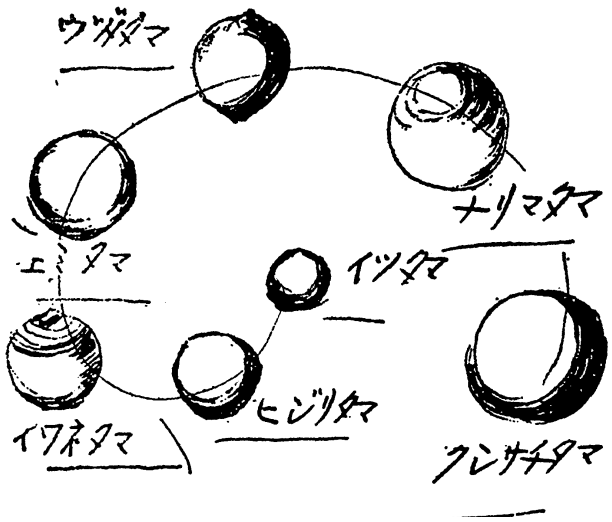
アマカムナ
アマカムヒビキ
ヤホヤチホ　ヤサカ　マガタマ
アメ　アマヒ
アキツ　ナナヨノタカマクラ
ヨロヅ　ハジマリ
イツノタマ　アキツ　トヨクモ
アメノウケ　コゴリ　コゴリミ
ヒジリタマ　アキツ　フトヨノ
アマヒクラ　ヤタチ　ホホデミ
イワネフネ　アキツ　アサヒノ
ヒコネクラ　ソトヨ　ニギスム
ヱミノタマ　アキツ　ヒコネノ
ホシマクラ　ウヅシマヒコユヅ
ウヅメタマ　アキツ　ホシマノ
サタテクラ　ヤシキハルホシ
ナリマタマ　アキツ　タカマノ
フタセクラ　オホキ　アソフク
クシサチタマ　アキツ　ヤサカノ
アラカタマ

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「タカマクラ　ナナヨツギ」

タカマクラとは宇宙の天球の全体を意味する。ナナヨツギとは「七の数で規制される周期現象」
それを７種類の単玉として表現し、それを「ヤサカノマガタマ」と名付けている。
イツノタマ　ヒジリタマ　イワネタマ　ヱミノタマ　ウヅメタマ　ナリマタマ　クシサチタマ



© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「ヤホ　ヤチホ　ヤサカ　マガタマ」

タカマクラ（宇宙球）は始端と末端の極限が永続的に循環している。ヤホヤチホは八百八千。
ヤで極限、天体において生成、分化、親和、還元、極限、の変遷が無限的に繰り返されている。
アマとカムのフトマニノタマ。

「アメ　アマヒ」

宇宙の諸天体もアマの微分されたアメから生成されたものあり、その発生源はアマヒである。

「アキツ　ナナヨノ　タカマクラ」

ヤサカのマガタマの七種の単玉はタカマクラの新陳代謝が七百万年、七千万年のような七の周期で
反復されているということを表現している。

以下、一つ一つのタマについて述べている。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「ヨロヅ　ハジマリ　イツノタマ」

万物のハジマリをあらわす小さなタマ、アマのもっとも小さい単位の粒子（マリ）を表すと
同時にモノには微細に分かれる性質（微分性）があることも表している。

「アキツ　トヨクモ　アメノウケ」

空に充満する豊かな雲（トヨクモ）のような始元量（アメ）のようなウケ（宇宙の気）から
諸天体が生成されるということをイツノタマが表象していることを告げている。

「コゴリ　コゴリミ　ヒジリタマ」

そのアメのウケが大きなカタマリに凝集して、大宇宙の遠心核（ヒ）になっているという意味。
コゴリ　コゴリミと繰り返すのは、その凝集が長期間夥しい数、何度にもわたって固まっていく
スケールの大きさを表している。フトヒ。「ヒジリタマ」とはヒを知る意味で、ヒとは「大もと」。

「アキツ　フトヒノ　アマヒ　クラ」

ヒジリタマは宇宙の諸天体を発生する根源のフトヒが、アマヒのクラであることを表象している。
アマヒとはアマのヒ（核）がクラ（自由に表れたもの）。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「ヤタチ　ホホデミ　イワネ　タマ」

フトヒから八つの軸状に（ヤタチ）空間的な力のクラが大きな岩に根を張り巡らす如く貼っており
その根のところどころに巨岩的な存在の太陽（アサヒ）が数多く分布しているという意味。ヤタチ
は八軸、ホホデミは正反つり合って発生する意味、

「アキツ　アサヒノ　ヒコネ　クラ」

フトヒから生まれたアマの子孫（ヒコ）のようなアサヒ（太陽）の分布している、岩根の張る如き
ヒオネクラを、イワネタマが表している。

「ソトヨ　ニギスム　ヱミノタマ」

ヒコネクラの中では、それぞれのアサヒ（太陽）の外側に（ソトヨ）太陽との引力関係を保って
多くの星が和やかにに集まって（ニギスム）一つの系（太陽系の如き）を成している。その相を
表しているのがヱミノタマである。

「アキツ　ヒコネノ　ホシ　マ　クラ」

ヒそれぞれの太陽（アサヒ）には、アマのフトヒの子孫（ヒコ）の系統に属する星の集団があり
ヱミノタマがそれを表している。アキツは前後の歌詞にかかっている。ホシとは正反親和（ホ）の
示し（シ）という思念。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「ウヅシマ　ヒコユヅ　ウヅメ　タマ」

ホシマクラのなかで渦巻流（ウヅシマ）の星雲（ヒコユヅ）が放出されていることをウヅマキタマが表象している。ヒコユヅとは、ユは水が湧いて湯になるように湧き出す思念。ツは個々、ウヅシマとはウヅの縞でアマのウヅマキ流（ウヅメ）という意味。ウヅシマヒコユヅとは、アマのウヅメからウヅメクソ（中性子、陽子、陰陽電子など）が無数的に放出されるスガタの相似象。

「アキツ　ホシマノ　サタテ　クラ」

ウヅシマから出たヒコユヅが分かれて独立した星のクラ（サタテクラ）をいくつも形作っていることを述べている。恒星空間（ホシマ）には、大小無数の集団があり、渦巻星雲や大小の彗星等があり、あるものは太陽系に入り込んで流星や隕石になり、あるひは月のような衛星となって地球や他の惑星の周囲をめぐっている。

「ヤシキ　ハルホシ　ナリマ　タマ」

満天の空に張り巡らされた八軸上に、数々の星々が展開している相の全貌をナリマタマが表象しているという意味。ヤシキとは極限まで広く敷かれている（シキ）、則ち宇宙球の全体をさすところから、後世、大きな邸宅（屋敷）の意味がでたのであろう。ナリマとはマのナリ、則ちマの本来性のスガタという意味になる。ナリとは「ヒトトナリ」「ナリフリ」「私ナリに」とか「それナリに」などとも、「ナリユキ「ナリワヒ」「アリマス」と「ナリマス」

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（一）

「アキツ　タカマノ　フタセ　クラ」

天空には正反性の相反する二つの系統のクラが存在するという意味。前の歌詞にかけられて、この二つとは正反性を意味する。南半球と北半球の関係がその相似にあたる。

「オホシ　アソフク　クシサチ　タマ」

天体が大きくなって爆発する様を述べている。アソフク＝火山爆発の古語。阿蘇＝火山。
クシサチタマは現代の天文学でいう巨星現象のこと。

「アキツ　ヤサカノ　アラタ　クラ」

巨星の爆発によって飛散した大小のかけらは、やがて元のアメの状態にまで還元し、アマ始元量にまとめられ、そしてまた新たに、イツノシマ、コゴリココリミ　ヒジリタマ、、、と生成発展して新しい星のクラ（アラタクラ）が出現する。崩壊方向が「クシサチ」、新たに発生生成するのが「アラタクラ」、この二つの系統があるのを意味するのと同時に前述の「フタセクラ」にもかけられている。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（二）

（一）宇宙正気（イキ）を表現する表象物
『イホツノ　ミスマルノ　タマ』
に関するカムヒビキ

アマカムナ
アマカムヒビキ
アモリ　スル　イホツ　ミスマル
フタヤタマ
アキツ　モロカゲ　ウマシ　イキ
フトヒ　ソトヨノ　ホホデミタマ
クシヌ　イソニギ　アマヒカゲ
アキツ　サカタル　マサチエミ
マクラハルタマ　トタテタマ
ヒコネ　クシヒコ　アマ　アサヒ
アキツ　フタカミ　シツハタテ
ハルヒ　サチハヤ　アマツナギ
アマツ　シキタマ　ヤマトヒコ
アキツ　フトチノ　ハナヒラキ
イツセ　トヨサキ　ニギホスム

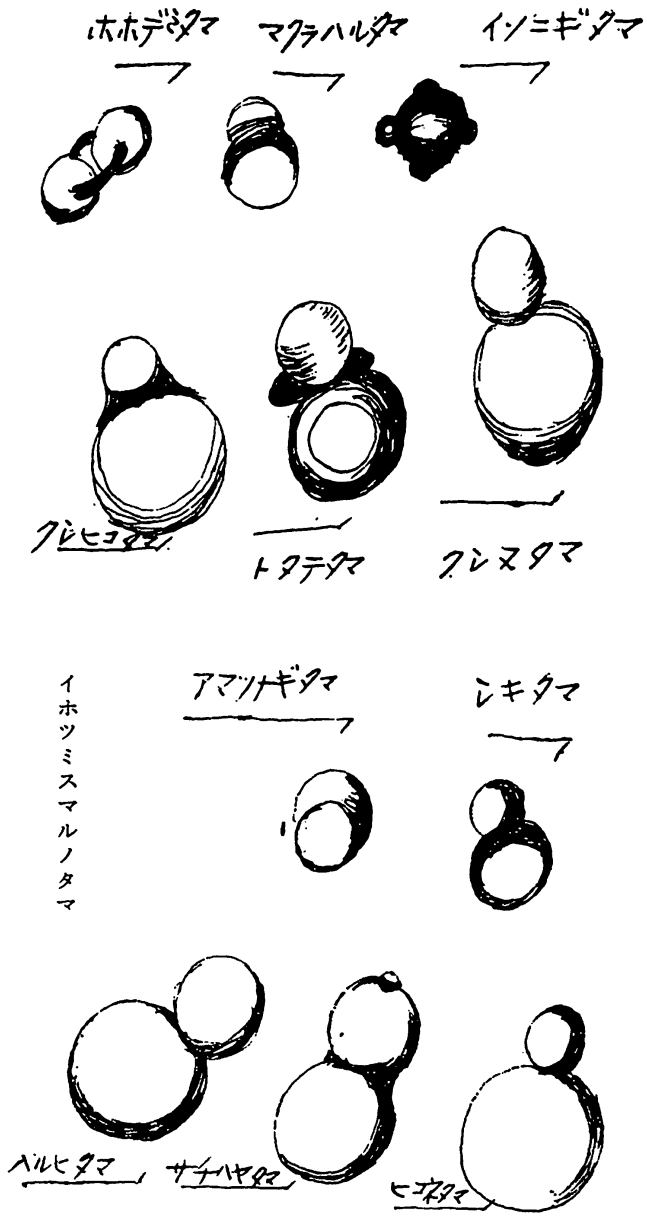
© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（二）

「イホツノ　ミスマルノ　タマ」

　イホは五百、数の多いという意味、ツは個々。ミスマルノタマはアマ始元量による生命構成の要素を、十一種類の双珠に託して表現した。生命の表象物であるが、ここでいう「生命」とは「宇宙の生命」という広範囲を指す。全てのものはアマ始元量から微分されたマリであり、宇宙に生まれた全ての微粒子を指している。
生気（イキ）とは宇宙全体を構成する機能。その持続が「イノチ」。ウマシイキ（宇宙のチカラが万物を生産してくる気」。

双珠で表現されているのは、全てのモノがうまれるのは「アマ」とそのカミ（起源）である「カム」のフタヤによって宇宙の生気（イキ）が発現するというサトリを表象している。
ホホデミタマ、クシヌタマ、イソニギタマ、マクラハルタマ、トタテタマ、ヒコネタマ、クシヒコタマ、ハルヒタマ、サチハヤタマ、アマツナギタマ、アマツシキタマの十一種。



© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（二）

「アモリ　スル　イホツミスマル　フタヤタマ」

アはアマ、モは裳裾を引くような思念。リは離れる思念で、アモリとは宇宙的関連を意味するヒビキ。
イホツミスマルとは、マから現れるたくさんの個々のミ。万物万象。
フタヤタマとは、アマとカムのフタヤによって全てが発現することを示している。

「アキツ　モロカゲ　ウマシ　イキ」

宇宙のすべてのものは宇宙広域のモロモロのオカゲ、宇宙の生気（イキ）が生成発現されたもの
であるということを以下の十一のフタヤタマ（双珠）によって表現したという意味。
「モロカゲ」は「モロサチ」と表現されることもある。サチとは授かりの持続、つまり「幸」のこと。
「ウマシ　イキ」とは生まれる示しのイキ（宇宙生気）という意味。宇宙がモノを生かしてくる気。

「フトヒ　ソトヨノ　ホホデミ　タマ」

宇宙の遠心核とも言うべきフトヒの外側に、いろいろな天体が正反の釣り合いをもって発現する
（ホホデミ）という意味。ホホデミとはいろいろのモノが機を熟して八方に発散するスガタのこと。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（二）

「クシヌ　イソニギ」

フトヒの外側に自由に（クシヌ）より集まった（イソニギ）天体群がある様を表したという意味。
ヌは星団が自由なツリアイを示し固定ではないという思念。

「アマヒ　カゲ」

自由に集まって現れる天体群は、アマヒのおかげであるという意味。
フトヒもアマヒも結局同じだが、フトヒには核的存在の思念、アマヒにはカムを指向する思念がある。

「アキツ　サカタル　マサチ　エミ」

天体群を放出するフトヒは宇宙の核（アマナ）でありフトヒから分かれて生まれてくる諸天体はアマヒのおかげでサカタル（栄が満ち足りた）マサチヱミ（相互繁盛の恵み）を得ているのである。

「マクラ　ハルタマ　トタエタマ　ヒコネ　クシヒコ　アマ　アサヒ」

マクラハルタマ（宇宙球に立体的な八軸上に張りめぐらされたクラ）に、ト（それぞれ統合し）
タ（独立し）テ（正反配偶）したクラが、ヒコネクシヒコ（親子や孫の根の如く自由に集まって
アマアサヒ（数多くの太陽系となって分布）している。

© 2021 カタカムナ音伝協会

カムヒビキ 第一部（二）

「アキツ　フタカミ　シヅハ　タテ」

アキツ（宇宙に展開されている諸天体のクラ）は、フタカミ（フトヒの作用とアサヒの作用）が
シヅハタテ（正反親和し、個々に独立してしづまっている）ということを、それらのマクラハルタマ、
トタテタマ、ヒコネタマ、クシコタマ等の双珠が表している。

「ハルヒ　サチハヤ　アマツナギ　アマツシキシマ」

ハルヒサチ（フトヒとアサヒのフタカミの作用）が、ハヤ（極限まで正反親和）している諸天体の恵みは
アマツナギ（アマのナギ、粒子性とアマのシキ、基盤に基づくもの）である。

「ヤマトヒコ　アキツ　トヨチノ」

ヤマトヒコとは多くのアマの恵みが統合されて存続している意であり、それはフトチ（アマの恵の
稔り豊かな）すなわち、「地球」のことを指している。

「ハナヒラキ　イツセ　トヨサチ　ニギホスム」

ハナヒラキ（地球において植物が繁り花が咲いて）イツセ（いろいろな生物が分化）して、トヨサチ
（豊かな稔り）があり、ニギホスム（賑やかに正反親和して繁殖している有様）を、それらrの
ハルヒタマ、サチハヤタマ、アマツナギタマ、アマツシキタマが表象している。

© 2021 カタカムナ音伝協会